

- 1 単元名 「走れメロス」の舞台監督は、君だ  
「走れメロス」(東京書籍2年)

- 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、文章全体に目を向けながら描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて読むために「『走れメロス』の舞台監督になって舞台を構想する」という単元を貫く言語活動を設定する。この言語活動で、生徒は、単なる一読者として読みを進めるのではなく、舞台監督の視点になって読みを進める。このように読み手の視点を置き換えることにより、文章全体に目を向けて内容を把握する必要性ができる。また、自分の読みを客観化して舞台の演出や役者にどのように演じさせたいかを考えることで、描写の効果や言動の意味を考えて読むことができる。以上のことから「文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」(C読むことイ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

- 3 単元について

- (1) 生徒観

本学級の生徒は、これまで「少年の日の思い出」や「卒業ホームラン」といった文学的文章の学習において、場面ごとに内容の理解を図る学習を行ってきた。その結果、場面の描写を詳細に読む力が身に付いてきた。しかしながら、文章全体に目を向けながら描写の効果や登場人物の言動の意味から作品に表れるものの見方を考える力は十分に身に付いているとは言えない。一方で、物語文に対する興味・関心は高く、登場人物の気持ちの変化を考えたり、文章の中に隠された表現の仕掛けなどを探したりすることには意欲的に取り組むことができる。

- (2) 教材観

「走れメロス」は、繊細で巧みな描写が描かれており、登場人物のセリフや行動によって、ストーリーが展開されていく。長い文章だが、中学2年生でも十分に内容を把握することができ、文章全体を通してどのようなことが書いてあるのかを考えながら読むのに適している。また、メロスの心の葛藤の場面や、友との約束が果たされるかどうかという状況には、親近感や緊張感を持って読み進めることができる話となっている。以上のことから、文章全体に目を向けながら描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて読む力を育てるのに適した教材と言える。

- (3) 指導観

本単元では、「『走れメロス』の舞台監督になって舞台を構想する」という言語活動を設定する。学習は、文章全体を見渡すために、「走れメロス」で伝えたいことを表す。文章の内容や展開をつかみ、伝えたいことをキャッチコピーで表す。その際、舞台監督として「走れメロス」という作品で、伝えたいことは何かを端的に言葉で表現する。このキャッチコピーが、どのような演出や演技が必要とな

るのかという基となる。また、描写や言動から内容を理解するために、演出や演技を考える活動を行う。舞台監督の視点で「走れメロス」で伝えたいことが表されている描写や言動に着目する。舞台監督の視点で演出や演技を考えることは、描写や言動が何を暗示し、どのような登場人物の心理が隠されているのかを考えることになるので、内容を理解することができる。キャッチコピーや話の展開にどのように関わるかが視覚的に照らし合わせられるようにし、常に文章全体に目を向けられるように、自分が着目した描写や言動を付箋に書き、ストーリーシートに貼っていく。さらに、描写や言動とキャッチコピーとを一貫してまとめる、「走れメロス」の構想シートを用いる。構想シートにまとめる際は、描写の効果から、どのように舞台の演出を行うのかということを書き記述する。また、登場人物の言動の意味から、どのように役者に演技をさせるのかを書き記述する。これまでの活動から描写の効果や登場人物の言動の意味を一枚のシートにまとめ、内容を再考することで、文章全体のものの見方を広げることができる。このように、付けたい力を活用して行う言語活動をしながら文章を読んでいくことで、描写の効果や登場人物の言動の意味を文章全体に目を向けながら考えて読む力を育てることができるであろうと考える。

#### 4 単元の目標

- 進んで文章を読んだり、読み取ったことをまとめたりしようとする。  
(関心・意欲・態度)
- 文章全体に目を向けながら描写や登場人物の言動に注目して読むことができる。  
(読むこと)
- 心情や言動などを表す多様な語句について理解することができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に興味を持ち、繰り返し文章を読もうとしている。</li> <li>・読み取ったことを、自分の言葉でまとめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体との関わりから描写に映し出される登場人物の心理や言動が、話の展開に与える影響を考えて読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情や言動などを表す様々な語句について、どのような意味を持っているかを理解している。</li> </ul>

#### 6 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動	評価規準
一	1	単元の見直しを持ち、全文を読む。	・作品に興味を持ち、文章を読んでいる。㊦
二	1	文章全体を監督の視点で見渡し、「走れメロス」で伝えたいことをキャッチコピーで表す。	・文章全体を監督の視点で見渡し、「走れメロス」に表れたものの見方をキャッチコピーで表している。㊦
	2	舞台監督の視点で、キャッチコピーに関わる描写や言動に着目する。	・心情や言動などを表す言葉の意味を理解し、描写や言動に着目している。㊦
	3	着目した描写や言動から、キャッチコピーに合う演出や演技を舞台監督の視点で考える。	・描写や言動を文章全体の内容や展開と照らし合わせて読んでいる。㊦
	4 (本時)	舞台監督の視点で、キャッチコピー・演出・演技に一貫性があるか考えながら読む。	・文章全体に目を向けながら、描写の効果や登場人物の言動の意味を考えて読んでいる。㊦
	5	舞台演出や演技を構想シートにまとめ、キャッチコピーを再考する。	・描写の効果や登場人物の言動の意味から、文章全体に表れたものの見方を自分の言葉でまとめている。㊦
三	1	自分以外の舞台監督の、キャッチコピー・演出・演技を見て、描写の効果や登場人物の言動の意味を考える。	・自分以外の舞台監督の構想を進んで見て、自分の構想と比較し、反映させようとしている。㊦

## 7 本時の学習

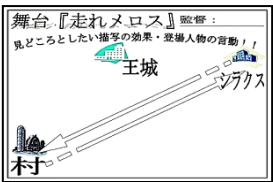

### (1) 目標

舞台監督の視点で、「走れメロス」に表れたものの見方と描写の効果や登場人物の言動の意味に、一貫性があるか考えながら読むことができる。

### (2) 準備・資料

ストーリーシート、構想シート、付箋、掲示用短冊、自己評価用紙

### (3) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点・評価
<p>1 前時までの学習内容と、本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>キャッチコピーに目を向け、描写や言動に何が暗示されているのか考えよう。</p> </div> <p>2 舞台監督の視点で着目した描写や言動をキャッチコピーと照らし合わせながら、どのような演出や演技につながるかを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆「王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かった」→単にメロスをにらみつけているのではなく、王のこれまでの人を信じられなくなってしまった苦悩が表現されている。信じられないからこそ、最後の場面で「顔を赤らめて」いる。</p> <p>★「王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かった」→怒っている。</p> </div> <p>(2) 着目した登場人物の言動から、どのような人物像と捉えたのかを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆「四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった」→王にもの申し、走り続けた強いメロスにも弱さがあり、人間らしい一面を感じる動きだ。そして、一度心折れるからこそ作品も盛り上がると思う。</p> <p>★「四肢を投げ出して、うとうと、まどろんでしまった」→いっぱい走って疲れたから一休みしている。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;">  <p>【ストーリーシート】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【構想シート】</p> </div> </div>	<p>○掲示用短冊に前時までの生徒の意見を記入して掲示し、黒板全体をストーリーシートと同じようにして、学習の流れが確認できるようにしておく。</p> <p>○描写の効果や登場人物の言動の意味を考える際はキャッチコピーに目を向け、前時に着目したものに加えてさらにつながりがないか視点を広げるように指示する。</p> <p>○照らし合わせる際は、キャッチコピーを基にストーリーシートで描写や言動をつなげるように助言する。</p> <p>○描写や言動は教科書から抜き出し、付箋の上半分に書き込むように指示する。</p> <p>○暗示しているものや人物像は付箋の下半分に書き込むように指示する。</p> <p>○書き込んだ付箋は、ストーリーシートに貼るように指示する。</p> <p>★あらかじめ教師が、既習の「卒業ホームラン」でモデルとなるストーリーシートを作成し、どのようなことを記入するのか参考に示せるようにしておく。</p> <p>○人物像を捉える際は、既習の「卒業ホームラン」のストーリーシートで書き方を示し、具体的にどのように捉えたのかを書けるようにする。</p> <p>○考えた人物像は、構想シートにも書き足していくように指示する。</p> <p>★登場人物の言動がどのように展開に影響を与えているのかを考えられるように、前のシーンと次のシーンに描かれている登場人物の言動に着目するように助言する。</p> <p>○文章全体との関わりから、描写に映し出される登場人物の心理や言動が、話の展開に与える影響を考えて読んでいる。〔読〕 観察・シート</p> <p>○掲示用短冊は、文章全体に表れたものの見方が深まるように、様々な描写や言動を書いている生徒を抽出して黒板に貼るようにする。</p> <p>○友だちがどんな描写や言動に着目し、暗示されたものや人物像を書いているのかに着目するように助言する。</p> <p>○自己評価用紙には、本時の授業を通して気付いたことや学んだこと、舞台監督として届けたいメッセージを記述する。</p> <p>○次時では舞台監督として、演出や演技で「走れメロス」で表したいことをまとめることを知らせる。</p>
<p>(3) 描写や言動に暗示されているものを掲示用短冊に書き、黒板に貼る。</p> <p>3 友だちが、どのような描写や言動に着目したのかを見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に移動し、友達の着目したものと自分の着目したものとを比べる。</li> </ul> <p>4 自己評価用紙を記入する。</p> <p>5 次時の学習課題を確認する。</p>	